

タイタズを忘れない

REMEMBER THE TITANS

映画で学ぶ 「対立する相手と話す」

対象：12歳以上（小学校高学年～中学生）

名前

年 組

1 対立は「避ける」もの？

もめごと（対立）はこわいので、つい「逃げる」か「戦う」の2つになりがちです。でもアサーティブには**3つ目の道＝話し合う**があります。

✕ 逃げる でも 戦う でもなく → 話し合う

🔑 対立を「こじらせる」やり方

① 相手を人としてでなく「敵」としか見ない ② 勝ち負けだけを考える（言い負かす） ③ 本音を避けて陰で不満を言う。

映画のチームも、最初はこの状態でした。

2 対立する相手と話す4つのコツ

■ ① 相手を「敵」でなく「人」として見る

立場の裏にある事情や気持ちを想像する。

■ ② 共通のゴールをさがす

対立点より先に「いっしょに目指せること」を見つける。

■ ③ 避けずに、^{けい い}でも敬意を持って言う

本音は言う。ただし人格を攻撃しない（＝アサーティブ）。

■ ④ 相手の「よさ」を認める

意見が違ってても、相手の力や努力は正直に認める。

3 映画『タイタンズを忘れない』とは

あらすじ（実話がもと）

1971年、アメリカのある高校で、黒人と白人の学校が一つに統合されました。アメフト部「**タイタンズ**」も、はじめて肌の色をこえた混成チームに。選手たちは最初、強く反発し合い、練習も口論ばかり。しかし**合宿で寝食を共にし、たがいの本音を知る**うちに信頼が生まれ、チームは肌の色をこえて一つになっていきます。実際にあった出来事がもとになっています。

歩み寄る3つのきっかけ

- ① 相手を「人」として知る（合宿で家族や夢を知る）
- ② 共通のゴール（勝ちたい）を見つける
- ③ 本音でぶつかり、相手の力を認める。

見るときの心がまえ

映画には当時の差別的な言葉・場面も出てきますが、それは「**してよいこと**」ではなく、**乗り越えるべき問題**として描かれています。歴史の事実として受けとめ、考えてみましょう。

4 歩み寄りワーク

映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

- ① 反発し合っていた選手が歩み寄る「きっかけ」の場面は？

- ② 「共通のゴール」は何だった？ それがなぜ大切だった？

- ③ あなたが「対立した相手」と話せた（または話せなかった）経験は？

- ④ 「戦う」と「話し合う」は、何が違うと思う？

5 ふりかえり

対立は、なくすものではなく _____ ものだと分かりました。これから、
意見がぶつかったときは、 _____ を試してみたいです。

「逃げず、戦わず、話し合う。」

先生・保護者へ：『タイタンズを忘れない』は米国PGのディズニー作品で、実話にもとづき当時の人種差別的な言葉・場面が「乗り越えるべき問題」として描かれます。本資料は12歳以上を想定。差別描写は事前・事後に文脈を補い丁寧に扱ってください。日本のレーティングは版により異なる場合があるため上映前にご確認ください。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIが作成し、内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。